

# 日本基礎教育学会

(The Japanese Association of Fundamental Education)

一緒に21世紀の日本の教育を考えましょう。

会報 No.42

令和3年3月3日

## 令和2年度 日本基礎教育学会月例会

令和2年度の月例会は、コロナ対応のため、安全を優先し、WEBでの開催としている。第2回月例会を以下のように実施した。

### <第2回 Zoom 月例会>

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 1 日時   | 令和3年2月20日(土) 15:00~16:30            |
| 2 発表内容 | 「自作絵本の活用を通じた総合的な学習の時間の基礎づくり」        |
| 3 発表者  | 小池 幸氏(十文字学園女子大学 非常勤講師)(前川越市立川越小学校長) |

平成10年度、学習指導要領の改訂により、小・中・高等学校のすべての校種において「総合的な学習の時間」が新設された。各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することにより、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間として総合的な学習の時間は新設された。

今回の改訂により、総合的な学習の時間には大きな変化が生じた。

【小学校】総合的な学習の時間は、教科の知識・技能を活用する学習活動を各教科の中で充実すること等を踏まえ、週1コマ程度縮減する。

【中学校】総合的な学習の時間は縮減し、3学年合わせて190時間とする。

【高等学校】「総合的な学習の時間」の名称は、「総合的な探究の時間」に改称し、総合的な学習の時間は、授業時数等を弾力的な取扱いとする

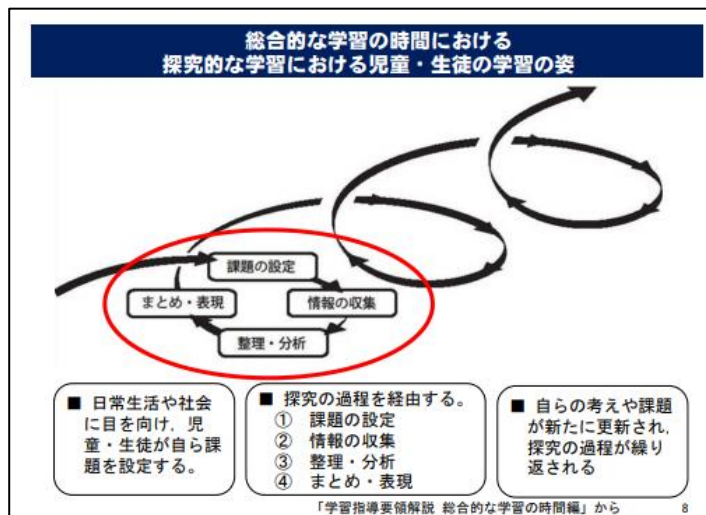
総合的な学習に時間の時数削減について、文部科学省の解説には、以下のように説明されている。

「生きる力」をはぐくむために、総合的な学習の時間で行われている体験的な学習や課題解決的な学習はますます重要です。これらの学習のためには、各教科で知識・技能を活用する学習活動を充実することが必要であることから、総合的な学習の時間の時数を縮減し、国語や理数等の時数を増加します。これにより、各教科での学習を踏まえ、総合的な学習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や探究活動の質的な充実が図られます。

講師の小池先生は、「教職課程における総合的な学習の時間の指導法の研究」という論文において、『総合的な学習の時間の趣旨を貫徹するためには、学校教育に携わる全ての教員が、「総合的な学習の時間」の趣旨、目標等を熟知・理解することは喫緊の課題である』と述べておられる。月例会においても、具体的な実践を基に、これからの総合的な学習の時間の進め方についてお話をいただいた。

月例会、参加者は18名であった。

(文責 高橋)



## 1 実践のねらい

令和2年度より、新学習指導要領の全面実施が小学校からスタートした。目を教員養成のカリキュラムに転じれば、教員免許法等の改正で、新たに、総合的な学習の時間についての履修が義務付けられた。

私が担当する十文字学園女子大学の特別活動の授業で、総合的な学習の時間を実施することはできないが、特に、小学校特別活動の4内容のうちの一つである学級活動に主軸を置いている点を考慮すると、学級活動の実践からつながる総合的な学習の時間の青写真の描きを、履修学生に意識的にも無意識的にもつかませたい。学級活動は学級活動だけで完結するのではなく、総合的な学習の時間を始め、各教科等はもとより、キャリア教育、特別支援教育、学校図書館教育等様々な教育活動とつながり、教育指導をより充実させていくということである。その具体化に向けて、本授業では、文字のない自作絵本を使用し、具体化に努めていく。

## 2 実践の概要

総合的な学習の時間の中核は、「探究課題」に基づく「探究学習」の展開であるが、本実践は、学級活動からのアプローチということになり、学級活動の授業が、総合的な学習の時間の授業と、どのようなつながりを見せるのかを見届けることとなる。

教育課程に位置付く特別活動の一つの内容である学級活動は、全員の合意形成を目指す学級活動（1）と、児童一人一人の意思決定を目指す学級活動（2）（3）に大別される。本実践は、後者である意思決定を目指す授業展開に視点を当てている。（以下、十文字学園女子大学での学級活動の授業実践の内容である。）

意思決定を目指す授業展開は、授業の方向性を示す「題材」のもと、まず、「導入」の中心である課題把握からスタートする。本実践のねらいは、良好な人間関係づくりであり、伏線として、心の発達に課題を持つ子供への理解と対応を織り込み、全体構想として、総合的な学習の時間の基礎づくりにもつなげるものである。導入部での課題把握は、次の「展開」へと進展する。ここで登場するのが、文字のない自作絵本の『にこりんとおこりん』である。担任（ここでは本職）が、絵と文字のない吹き出しをスクリーンで提示しながら、擬人化された動物（ここでは、ぴよちゃんとライオンさん）たちの会話を即興で創作する。子供たち（ここでは履修学生）一人一人が、情景を脳内で3D化し、自己の思考・行動とオーバーラップさせていく。この後、今度は子供たち一人一人が、それぞれの動物になりきり、会話を創作し、さらにグループディスカッションを経て、オリジナルストーリーを完成させていくこととなる。授業最終部の「終末」では、このオリジナルストーリーから導き出される子供たち一人一人の良好な人間関係構築のための行動目標を意思決定し、全体に発表し、授業終了となる。

ここまでの、まず、学級活動（2）（3）のオーソドックスな流れであり、総合的な学習の時間へのつながりについては、次の「3 考察」で記す。

## 3 考察

### （1）実践のねらいから

総合的・横断的な思考について、道徳や絵本制作に発想が広がっている。様々な教育活動に、絵本が持つ可能性が秘められているととらえることができる。また、教科等の枠を超えた、多様性への理解と尊重についてもとらえることができる。さらに、様々な立場からの創作が可能となり、思考の柔軟性の高まりをとらえることができる。総じて、総合的・横断的な思考が、履修学生に高まりつつあるものと考えられ、総合的な学習の時間へ波及するものと見通すことができる。

### （2）総合的な学習の時間への関連付けから

学生の総合的な学習の時間に対すとは、小・中・高等学校の経験値に基づくが、実際、あやふやな状態であることが現状である。しかし、絵本の取り上げにより、絵本そのもの自体への興味・関心、創作への興味・関心、活用への興味・関心等が高まり、小学校3年生からスタートする総合的な学習の時間の「児童の興味・関心に基づく課題」の具体的とらえの一助になると見通すことができる。

### （3）絵本活用による他教科等及び活動への広がり（クラブ活動に視点）から

教師、子供たちの絵本活用に伴う創作への思いは、まだ一般的ではないが、クラブ活動にも波及効果があり、

探究課題・探究学習の素地を広げ、総合的な学習の時間との、いわゆる往還関係を構築するものととらえられる。

《新設クラブ予想》 ①「レッツ スピーククラブ」(英語) ②「数字パズルクラブ」(算数) ③「プログラミングクラブ」(情報) ④「百人一首クラブ」(国語) ⑤「絵本クラブ」(総合的な学習の時間) など

【以下は、文字の無い絵本の活用場面である。なお、ここでは、創作例を記載している。】

前半  
場面 1



《会話例》

ぴよちゃん：へん！楽しそうなこと、している  
じゃないか！

ライオンさん：うん、とっても楽しいよ！ライ  
オンさん。

前半  
場面 2



《会話例》

ぴよちゃん：うるさい。ぼくにもやらせろ！

ライオンさん：ぴよちゃん、何するんだよ！

前半  
場面 3



《ぴよちゃんの心の中 例》

ぴよちゃん：くそー、何でぼくにやらせないん  
だ、頭にきたぞ〜。よし、うばい  
とってやる！

前半  
場面 4



《会話例》

ぴよちゃん：やった〜、うばったぞ〜。

ライオンさん：ぴよちゃん、やめてよ〜。  
え〜ん、え〜ん。

ぴよちゃん：ふん、やなこった！

後半  
場面 1



《会話例》

ぴよちゃん：ライオンさん、楽しそうだね。  
ぼくも、一緒にやっていいかな？

ライオンさん：うん、いいよ。一緒にやろう、  
ライオンさん。

後半  
場面 2



《会話例》

ぴよちゃん：シャベル、借りていいかな？

ライオンさん：いいよぴよちゃん。はい、どうぞ。

後半  
場面 3



《ぴよちゃんの心の中 例》

ぴよちゃん：ライオンさん、親切だな。ぼくも、  
友達から声をかけられたら、てい  
ねいに伝えよう。  
ライオンさん、ぼくの大親友だ。

後半  
場面 4



《会話例》

ぴよちゃん：ありがとう、ライオンさん。  
一緒に作ると、楽しいね。

ライオンさん：ぼくも同じだよ。ぴよちゃんと  
一緒に作ると、とっても楽しい  
よ。いつも、一緒に遊ぼうね。

【メールアドレス連絡のお願い】本年度より、会員への連絡を郵送からメールでの連絡に切り替えさせていただいています。郵送費が学会の運営にかなり負担になっています。事情をご理解いただき、メールアドレスを下記まで連絡いただきますようお願い申し上げます。

連絡先：日本基礎教育学会事務局 高橋 京子 メールアドレス：[kyouko-t@jumonji-u.ac.jp](mailto:kyouko-t@jumonji-u.ac.jp)